

武者小路實篤全集

第七卷

武大
全集

武汉大学图书馆
章



第七卷

武者小路實篤全集 第七卷

一九八八年十二月二〇日 初版第一刷発行

著者——武者小路實篤

発行者——相賀徹夫

発行所——小学館

一〇一〇一 東京都千代田区一ツ橋丁目二番一号

振替 東京八二〇〇番

電話 編集 〇三―三三〇―五二三四

業務 〇三―三三〇―五三三三

販売 〇三―三三〇―五七三九

印刷・製本——大日本印刷株式会社

用紙——三菱製紙株式会社

定価=6800円

Printed in Japan ISBN 4-09-656007-3
© Mushakōji Sanezumi 1988

※著者快印は省略いたしました。 ※遺本には十分注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。 ※本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作権および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社まで許諾を求めてください。

目次

草 原・泉と鐘

・『草原』

序

来年は三十六

一九二一年その他

社会主義其他

政治運動其他

芸術の世界では

今の時代

政治家を嫌ふのは

よき批評家其他

武郎さんの死

今後の文芸

日記

新しき村より

・『泉と鐘』

序

実感に就て

読んだ脚本六つについて

三八

三三

三一

二三

二一

一九

一七

一五

一四

一二

一一

八

四

三

雑感	四二
嘲笑	四四
筆の向くまゝ	四七

人生を斯く考へる	五五
----------	----

序

瞑想（人生について）	五七
------------	----

生命に役立つ為に	一七三
----------	-----

序文がはり	一七五
文芸と人生	一七六
生活と芸術	一八七
創作的エネルギー	一八九
祭りの曲	一九二
生と熟	一九三
自分の実力	一九四
ドストエフスキーに就て（断片）	二〇〇
読んだもの其他	二〇二
倉田のことなど	二〇三

自分はこの頃……………二〇七

自分の詩……………二〇九

同志の人々に……………二一〇

同志の人々に一すべての人に一秋一喜び一豪健一田舎

雑感三十五……………二一八

力の泉……………二二五

自分は……………二四二

心覚え……………二四四

文芸雑感

文芸雑感……………二四九

無題一超個人主義文学一プロレタリア文学一ブルジョアの弱点一東洋人のあ

きらめ一科学的料理一文学の一つの特色一プロレタリア一人間が生きてゆく

に一一人の作家一いかなる時代にも一理解しないで一藤村の「嵐」をよむ一

其他一今生きてゐる人では一文壇の人は一自分の望む生活と文学一今度も読

めなかつた理由一批評について一批評家として一自分のこと一平和な生活一

文学者一色魔について一読んだもの一見たもの一芸術の種類

「生活」及びその他……………二七六

生活者……………二八〇

真人主義……………二八二

雜記……………二八三

無題……………二八八

断片語……………二九一

芸術の価値は何によつて決まるか……………三〇二

平和の民……………三二三

三浦の叔父さん、其他……………三一五

三浦の叔父さん 一 齡の顔 一 画をかつて見て 一 遺伝と性格

亡き父の手紙、其他……………三二二

亡き父の手紙 一 姉の墓

木下は死んだ……………三二七

木下の死は、其他……………三三〇

平和な民……………三三二

友へ（奈良通信）……………三三五

奈良通信……………三三八

母に感謝してゐることなど……………三四〇

新しき村現状……………三四三

日記がはり……………三四四

同人雜誌……………三四六

夢と現実……………三四九

自分の心にも……………三五四

雑感……………三五七

日米戦争はまさかないと思ふが……………三五八

人類の本……………

・『女の人の為に』……………

序……………

清浄な幸福……………三六四

美人に就て……………三六五

生れたまゝの美しさ……………三六七

父娘問答……………三六八

がらんどろ……………三七二

雑感……………三七四

男女……………三七七

友達……………三七九

男女の交際……………三八二

男にだまされる女……………三八三

新しき社会と女性……………三八五

だんだん賢くなる……	三八七
自分の希望（わかり切ったことだが）……	三八八
男と女のある優劣論から……	三八九
女性に……	三九〇
食欲と性慾……	三九二
他人の恋愛……	三九四
愛情に就て……	三九七
恋愛と結婚……	三九九
若き女に読ませる感想……	四〇一
結婚に就て……	四〇五
夫婦……	四〇七
一夫一婦のために……	四一一
妻子に対して……	四一二
家庭的エゴイズム……	四一五
不幸な人妻に……	四一九
子供を育てる人……	四二二
子供を……	四二二
母と子の無理心中……	四二三
ある手紙……	四二四

新しき村と女	四二六
新しき村に入りたい女に	四二九
・附録	
女と女の価値に就て	四三一
・『建設の時代』	
建設	四三四
村と金	四三八
新しき村と政争	四四〇
新しい世界	四四二
自分と他人	四四二
すべての人は云つた	四四五
新しき村と土地	四四六
正しい世界が来たら	四四七
新しき村にて（対話）	四五三
新しき村についての対話	四六〇
或る入村希望者に	四六四
馬鹿な武者小路	四六九
思慮の足りない	四六九
生きてること	四七〇

大樹の苗……………四七〇

金にかはるもの……………四七一

新しき村雑感……………四七一

新しき村小品……………四七三

噂 — 赤坊 — 水路 — 新しき村の馬

・『三方面』

三方面……………四八三

ある作家 — ある社会の人間 — 人間として

芸術家の使命……………四八五

創作家の資格……………四八六

無限の味……………四八九

役者か脚本か……………四八九

「桃源にて」の評を見て……………四九二

日記の内より……………四九四

思つたまゝ……………四九五

生命主義 — 自分のかくものに — 作者と材料 — 芝居と嘘 — 文士の喜び — 文芸偶

感 — 芥川君の死 — 読みたい時に読む

無題……………五〇五

死……………五二〇

武郎さんについて……………	五二三
ある兄弟姉妹達に……………	五三二
決心せる人々……………	五三四
雑感……………	五三七
此頃は何を考へてゐる(対話)……………	五四一
生命に役立つ程度で……………	五四五
独立人……………	五四七
何処へ行つても……………	五四八
人間について……………	五五〇
或る蜘蛛の死……………	五六一

解説・解題……………

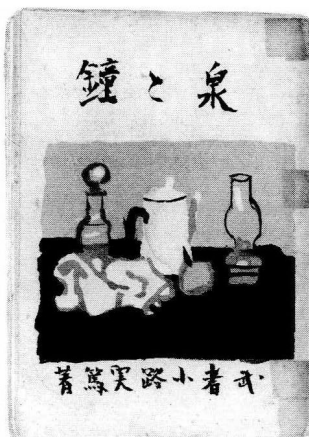
関口弥重吉……………

草

原・泉
と鐘



〔『草原』表紙。装幀：恩地孝〕



〔『泉と鐘』表紙。装幀：中川一政〕

序

こゝには本にのせたことのないものを集めることにした。古いものも新しいものもある。雑感、小品、日記の断片、対話などある。手あたり次第にあげて気軽によんでほしい。読みづらいのはあとまわしにしてよみいゝ処から読んでほしい。

読む内に何かを見出してくれるとうれしい。其処には僕の心にくつつたいろ／＼のものがあるであらう。

僕の心のいろ／＼の方面が、あらはれてゐると思ふ。其処にはいろ／＼のものがあると思ふ。読む時の気分に応じてあつちよみ、こつちよみしてほしい。

全篇統一したものはないと思ふが、それだけ少しの暇をぬすんでよむのはいゝかと思ふ。僕はわりに気持のいゝ本になるかとたのしみにしてゐる。

二四・三・一四

来年は三十六

来年は三十六で、何か一つ創作らしいものを仕上げたいと思つてゐる。出来るか知らんと云ふ氣もする、が何か書いて見るつもりだ。

この頃は今迄自分のして来た仕事はなんでもないと云ふことがはつ切りして来た。どんな仕事をしてしまへば何でもないと云ふことになりさうな氣もする。たゞ心を清くし、全力をつくした仕事でないものを思ひ出すのは不愉快だが。自分は幸ひ、幼稚なものはかいたが、心に恥るやうな仕事はあまりしなかつたやうに思ふ。之からはもう一步も、二歩も進まなければならぬ。

之から本当の自分が生き出すやうに思ふ。しかしそれには自分の頭の力を本當に養はなければならない。

こゝにゐて不自由なのは、本屋と、画をうる処のないことだ。自分はこの頃又、新しいものが見たくなつて来た、本當に新しい道を切り開いてゆく世界中の若々しい男がなつかしくなり出して来た。自分の内にその力がまつてゐる。誰もが入れない処に入りたい。古いものには元よりいゝものがある。しかし自分の内に燃えて居る火は矢張り、未来に望みをおいてゐる。

恐ろしいものよ生れよ。

世界の何処かにはもう生れてゐるやうな氣がする。自分は未来派

やキユビズムにはどうも好意がもてない。もつと大きな正しい望みをもつた孤立した、しかも人類や自然のことを本当に思つてゐる男が何処かにかくれてゐるやうな気がする。

自分はそう云ふ男の、真心と愛を要求してゐるものだ。

自分は日本にもそう云ふ人間のあることを知つてゐる。力よ燃え上れ。真剣な力よ燃え上れ。我等は真剣な上にも真剣にならないでは生きた氣のしない時が来た。

自分は一方この頃、喜びそのものゝやうなものゝ愛するやうになつた。しかし真剣なものゝ一方になれば淋しい。

自分は生きてゐる内に面白いことが始まり出すことを信じてゐる。自分も、もう一步進めたら、うんと自由な、そのくせ、無限の深さから燃え上るものを表現出来さうに思ふ。自分は一方、動かさない、構図のしつかりした、静かなものゝかきたく思つてゐる。しかしどつちにしる自分の柄にあつたこと切り自分には出来ない。その他は他の人々に任せなければならぬ。自分に任された方だけは、立派にやりとげたと思つてゐる。

望みの小さい奴には困る、つまらぬことが大事件になつて。僕にとつての大事件は、僕が墮落することだ。それ以外に大事件はあり得ないと思つてゐる。そして僕は墮落し切れる人間ではない。僕は、大事件を知らずにする人間らしい。心配することも、淋しい時も、腹を立てることもあるが、それは子供らしいことで、問題にするには余裕のある時に限る。自分は自分の一生を本当に生かすことさへ出来れば他は何かに任せることの出来る男だ。だから腹の底では安心してゐる。他人に不快を与えるのは実に嫌ひな男だが、それも程度だ。自分の一生の仕事の邪魔にならない程度だ。

(二〇、一一、二二)

一九二二年その他

一九二二年よ
よき年であれ

俺はお前に多くの望みをおいてゐる。

自分も、兄弟姉妹も

人類も一生懸命になつて

力を新にして

生き上らうとする

年であらう

俺はたのむ

平和であれ

よき年であれ

収穫の多い年であれ

一九二一年

力が足りないことはよく感じるが、世間の思想家達のかくものはなほがゆい。皆へんな処にひつかゝつてゐる。ひつかゝつてゐるものをふみ破らないとはがゆい気がする。生長力の強い若者が自分の確信のもとに何をも恐れずに叫び出す時はいつか。早く生れてくれ新しい男女。